

令和2年度「プロジェクトシート」（以下の教科順に記載）

国語、社会、数学、理科、英語×2、保健体育、技術、自立活動（特別支援）

<プロジェクトシート（国語科）>

「登場人物を通して、自分を見つめる」

1 題材名 第3学年 握手

2 単元構想について

昨年度から、国語の授業を生徒と共につくることを目指して取り組んでいる。令和元年度は、学習課題を自ら設定し、授業そのものを自分達で進めるという試みを行った。主体的な取り組みや深い読み取り等で収穫も大きかったが、何のために自分達で授業をするのか考えずに取り組んでいた生徒も多かった。

そこで、今年度は、年度当初に昨年度の学習を振り返った上で、3年生の国語科としてどんな力を身に付けたいか、そのためにはどのような授業をつくりたいかを考えさせた。次に、夏頃までの学習内容（4つ）を示し、どの順番で学習したらよいか、付けたい力が身に付くようにするために取り入れたいことは何かについてさらに検討させた。話し合いの結果、教科書掲載の通りではなく、俳句→古典（論語）→小説（握手）→説明文（月の起源を探る）という順番で学習することにした。学習のつながりを見出し、学んだことを次に生かせ、自分の考えや理解が深まるからという理由を述べる生徒もおり、自らの学びの見通しをもつことにつながった。

そして、一連の学習を「自分を見つめ、表現する」単元と位置づけた。昨年度末に実施できなかった立志式を「飛躍の会」として7月に行うことになり、生徒が今までの自分と向き合い、これからの自分を考えるにあたり、国語の学びを生かせるのではないかと考えたからである。

俳句を学習した際には、特に鑑賞に力を入れ、選んだ俳句について自分はこう捉えたという個々の思いを大事にして授業を進めた。同じ俳句でも、違う情景や思いを想像する。この授業で、生徒は柔軟な発想や思考ができ、それを自由に伝え合うことができるようになったと感じている。

論語では、論語を通して自分自身について考えさせる学習を行った。自分が一番心に響いたものについて、自分の経験や体験を交えて文章にまとめさせた。さらに、文章を読み合うことで、表現力を学び合うだけでなくクラスメートの思いを知る時間となった。

今回授業公開する「握手」という物語には、「ルロイ修道士」と「わたし」の2人の登場人物しか出てこず、ほとんどが2人の会話で進められている。しかし、朴訥とした会話の中から、ルロイ修道士の人柄や信念がじんわりとにじんできくる。人が何のために生きるのか、人間の尊厳とは何かを考えるにふさわしい内容であると考えている。また、二人の関係性や互いへの思い等、人生における大切な人との出会いについて深く考えさせられるものとなっている。これらの学習を通して、自分自身を振り返り見つめ、これからの考えることにつなげたい。

義務教育9年目の集大成として、主体的な学びにとどまらず、「他者に思いを馳せながら自分自身や生き方について考える」国語を目指していきたい。

3 実施時期 7月中旬から下旬

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1～3	・学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	○学習課題を考える際に、ルロイ修道士の生き方・考え方に注目させる。 ○授業の進め方についても考えさせる。
4～8	・課題に沿って読み深める。	
9	・振り返りをする。	

<プロジェクトシート（社会科）>

「安居中学校のルールを見直そうプロジェクト」

1 題材（単元）名 第3学年 第1章 現代社会と私たちの生活
3節 現代社会の見方や考え方

2 題材（単元）について

現代社会において、よりよい社会生活を営むために、「対立と合意そして合意」「効率と公正」という見方や考え方を学ぶ。また、社会生活を円滑に送るために「決まり（ルール）」が存在し、見直すことうでの社会的な見方・考え方も学ぶ。

本校では、先日「安居中学校の規則」の変更・追加が行われた。そのできごとをきっかけにして生徒の中には、「規則の見直し」に対する意識が高まっている。自分たちの学校のルールを今一度考えることや、またそもそもなぜルールが必要なのか。そのルールに込められた願いなどを考える活動を通して「自分たちの学校を自分で創る」という意識を育みたいと考える。

この単元では、まず生徒に「安居中学校の課題は？」と投げかけるところからはじめ、「安居中学校のルールを見直そう」という学習課題を創り、生徒と共にルールづくりの計画を立てて、授業を展開していきたい。

3 実施時期 7月上旬～

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	○「安居中学校の課題は？」について考える。 ○ルールの必要性について考える。	・「安居中学校のルールを見直そうプロジェクト」を立ち上げ、プロジェクトリーダーを募る。
安居中学校のルールを見直そう。		
2 3	○「対立と合意そして合意」「効率と公正」について学ぶ	・プロジェクトリーダーを中心に授業計画を考える。
4	○ルールの評価基準を考える。 ○個人でルールを考える。	・プロジェクトリーダーを中心にルールの評価基準を考える。
5	○グループになりルールを発表する。 ○グループのメンバーから質問等を受ける。	
6	○ルールを再考する。 ○ルールを評価する。 ○単元での学びを振り返る。 ○これから自分の考えたルールをどのように形にしていくかを確認する。	・プロジェクトリーダー考えたルールの評価基準を配布する。

<プロジェクトシート（数学科）>

「日常を数学的に考察する」

- 1 題材（単元）名 第2学年 第3章 一次関数
- 2 題材（単元）について

本単元では、中学校1年生の「比例・反比例」から始まり、3年生の「関数 $y = ax^2$ 」へとつながる関数領域の学習を行う。一次関数は、「比例」を一般化した概念であり、変化の割合が一定（グラフが直線）で、切片（初期値）が必ずしも0でなくてもよい事象を扱う。例えば、現実世界の物体の速さは常に変化するものが多い（変化の割合が一定でない）が、等速と考えて問題を解決していくなど、具体的な事象を一次関数とみなすことも必要となる。

第1～4時では、比例を含む一次関数から二次関数までの一部中学校範囲を超えた関数との比較から、一次関数の概念形成を図る。これは、昨年度から取り組んでいることであり、3学年ともその学年で学習する関数を超えたものとの比較から概念を形成していくという学習活動をスパイラル的に組んでいる。それ以降は、複数の文脈で一次関数を扱っていくことで、概念理解と知識・技能の習得を図る。第8～12時では、生徒たちが興味を抱く日常的な事象を、学習した一次関数の視点からグループごとに探究する場面を設定する。

今年度、数学の授業を通して養う「数学的な見方・考え方」を明確に提示しようと考えている。学習指導要領などには、「演繹」、「帰納」、「類推」といった見方・考え方が示されているが、生徒たちがイメージしやすく、他の学習にも生かせるようなものに分類・整理して提示できないかと考えている。

- 3 実施時期 9月中旬～

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	○規則的に並ぶ正方形から、関数関係にある数量を発見し、変化の仕方を考える。（離散的な事象）	・基本的な概念や知識を教授一辺倒で「教える」のではなく、「ともに創る」。
2 3 4	○前時で発見した数量を各班で分担し、式・表・グラフなどを使って変化の仕方を考える。 ○各班の気づきをシェアすることで、概念形成を図る。	
5 6 7	○速さの問題を、一次関数を用いて解決する。 ○前時までに形成した概念を、違った文脈の中で考えることで補強する。	・学んだことを生かして日常の問題を解決する。
8 9 10 11 12	○料金の問題を、一次関数を用いて解決する。 ・安居中学校で1か月にかかるお金について調べる。（電気・水道・ガスなど）	
13 14 15	○動点問題を、一次関数を用いて解決する。	

<プロジェクトシート（理科）>

「科学の祭典で発表しよう」

1 題材（単元）名 10月までの全範囲

2 題材（単元）について

理科の実験は点数をとるためにやった方がいい。昨年度安居中学校に赴任してきた際に今の3年生がいていた言葉である。昨年の4月の頭のアンケートでは「理科が好き」「日常に役に立っていると思う」と答えた生徒が非常に少なかった。そのため、「理科は面白い」「日常の役に立っている」と実感できるようになる授業を行いたいと常々考えてきた。昨年はその効果もありSASAの意識調査では非常に数値が高くなっていった。そこで、本年度は、昨年度も参加し意識向上の一端を担ったであろう科学の祭典で、中学校で学んだ内容を生かしたブースを展開してもらうこととする。その上で、各単元の中では、自分達で授業を行ったり、ブースを展開したり動的な授業内容を増やしていく。すべては科学の祭典で魅力的なブースを展開するために。既にはいじまっているプロジェクトなので、各学年で記していく。

3 実施時期 6月上旬～

4 指導計画

月	1年	2年	3年
6	○地域のビオトープの植物調べ →総合のプロジェクトチームが引き継ぐ ○動物の分類で生徒が授業	○配信授業のまとめとして安居恐竜博物館のブースを展開 ○化学実験技能を習得	○水溶液の性質の全実験とその説明を生徒が担当。
7	○化学実験の基礎技能を習得	○人体のからだの不思議を通して大目標の決定。生徒による授業	○生命の連続性 座学でつまらないのでなんかしたいのだが、今のところアイデアなし
8	○気体の性質の実験は各班が1つ実験を担当し、授業を行う。そのため、水溶液の性質を先に行う可能性あり		
9	○「光の世界」は、実験器具を通して生徒が大目標を決定（昨年は虹は何故出来るかになった）	○天気とその変化 生徒と大目標の決定。去年は気象予報士だったので今年は違うテーマにしたい	○運動とエネルギー 風の広場の骨組みに着目して力の分解の授業を行う。設計してくれた方に来てもらえるといいのだが・・・
10			
11	理数グランプリに出場 科学の祭典に出場		○学力診断テスト

<プロジェクトシート（英語科1）>

「Our Homestay Advice プロジェクト」

1 題材（単元）名 第2学年 Unit4 A Homestay in the United States

2 題材（単元）について

アメリカで夏休みにホームステイをする予定の咲達。Communication is important. と書かれた現地でのホームステイ説明会のガイドブックでこの単元は始まる。生徒達はホームステイ先で、自分でベッドメイキングをする経験をし、食事の量が多くて困ったり、ホストファミリーがどこへも連れて行ってくれなかったりといった問題にぶつかる。そして、先生にメールでアドバイスをもらって問題を解決する。

本単元では、自分達自身ならどうするのか、教科書のアドバイス以外の解決方法についても考えてみる。そして、反対に外国人をホームステイに招待する立場なら、どんなことに気をつけるとよいのかについても考えて招待状を作る。

3 実施時期 9月中旬

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	○ホームステイに必要なことをできるだけ多く挙げる。 ○Starting Out に書かれている必要なことを理解する。	・自分たちで考えた後、筆者の考えを知る。
2	○人の家に泊まりに行き、我が家との習慣の違いに驚いた経験を挙げる。 ○Dialog を読んで、咲のホームステイ先での経験を理解する。	・社会では多様な人々が生活し、生活習慣や行動の違いがあるのは当然だと気付く。
3 4 5	○Read & Think 1・2 を読んで、咲達のホームステイ先での悩みを知り、その解決方法を考える。	・いろいろな立場に立って、できるだけ多く解決方法を出す。
6	○福井に住む外国人との交流について考える。 ○班で彼らをホームステイに招待する時、「招待する側として気を付けたいこと」「一緒に楽しむとよいこと」について考える。 ○班でホームステイの招待状を英語で作る。	・意見の羅列にとどまらず、十分に議論して班員全員の意見が反映できるように、班で意見をまとめる。
7	○班で、招待状に込めた自分たちの思いや工夫について説明する。 ○活動を通しての感想を書く。	・外国人とのコミュニケーションで気を付けたいことについて考えを深められたかを振り返る。そして、次の単元への目標を持つ。

<プロジェクトシート(英語科2)>

「災害・防災について考えよう」

1 題材(単元)名 第3学年 Unit4 “To Our Future Generations”

2 題材(単元)について

本単元では、防災を題材として、物事のやり方やすべきこと、人にとって必要なこと、あるいは人にしてほしいことなどを英語でどう表現するかを学ぶ。本単元では、不定詞の応用(疑問詞+不定詞、It is (for 人)+不定詞、want+不定詞)が言語材料となるため、to の後ろは原形動詞になるなどの既習事項の再確認もできる。

本校生徒に防災をより身近な話題と捉えさせるために、東日本大震災の話題から入り、安居地区の災害の様子を伝えることでより自分事の話として考えさせたい。本単元を通して、他者との意見交流をしながら自分たちの地域や家庭の防災対策について改めて共に考えていきたい。また、場面設定をすることで、自然な流れの中で英語を使って自分の考えを表現させたいと考える。

3 実施時期 9月中旬～下旬

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	○東日本大震災の映像を見せる。→安居地区の災害の資料を見せる。 ○防災意識度チェック	
2 3 4 5	○本文の内容理解 大まかな内容を把握した後、個人→グループで分かったことや疑問点を書き出す。最後にそれを発表する。 ○この単元の新出文法を確認する。	*グループで協働して教科書の読み取りを行う。 *机間巡視の際、グループ学習が滞った際は、ヒントを与えるなどしてグループで協力して読み取る環境を作る。
6	○学校や地域、家庭の防災対策について、ハザードマップなどを見ながら考え、紙にまとめる(避難場所やすべきこと、大切なこと等)。 ○地域や学校の防災対策については、ALT に発表することを伝えておく。	*グループで協力して、資料を読み解きながら学校や地域の防災対策について考える。 *家庭の防災対策については、表現をグループメンバーと考え、工夫しながら書く。
7	○地域や学校の防災対策を、ALT に発表する(準備も含める)。	
8	○起こってしまった災害の記憶を引き継いでいくために、自分たちにできることを考える。 ○Activity1&2 ○単元の振り返り	*防ぐだけでなく、起こってしまった災害をどう後世に残すかについて、グループで考える。

<プロジェクトシート（保健体育科）>

「JKK&MKKプロジェクト」

1 題材（単元）名 第1学年 第2学年 第3学年 保健分野

2 題材（単元）について

今まで、保健の授業では、若干の体験活動はあるもののそのほとんどが講義形式で、そこに探究活動はあまりなかった。そこで、今回は全学年で発達段階に応じたプロジェクト学習を展開していく。

第1学年では、「JKK（自分の体を解明する）プロジェクト」と題し、「心身の発達と心の健康」の内容について、テーマを選び、それを探究し、ポスターセッション形式でみんなに発表する。

第2学年では、「JKK（自己の健康安全を考える）プロジェクト」と題し、「障害の防止」「健康な生活と病気の予防」の内容について、第1学年と同様な方法で探究していく。ただし、探究した内容は、ポスターセッションではなく、他の生徒に授業という形で共通理解を図っていく。

第3学年では、「MKK（みんなの健康安全を考える）プロジェクト」とし、「健康な生活と病気の予防」の内容から1つテーマを選び、それに関係する内容で、これからの生活の参考になるヘルスライフプランをみんなに提示することで、健康な生活とは何かを考えさせていきたい。

3 実施時期 9月中旬～

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの健康を脅かすものについて考える。 ○自分が探究したいテーマを選ぶ。 ○プロジェクトチームを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の取り巻く環境で1番身近なテーマを選択することができる。
	自分たちの健康を守るためにはどうしたらよい	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだテーマについて仮説を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちの健康を守るためには」という大テーマにふさわしい仮説を立てることができる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクトのスケジュールを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説を検証するためにはどんな調査方法が必要か考え設定する。
4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ○スケジュールに従って探究活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査活動をしながらか、必要であれば途中でスケジュールの軌道修正を行い、仮説の証明を行っていく。
7 8	<ul style="list-style-type: none"> ○探究した内容をみんなに伝えるためにプレゼン方法を考え、準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んだプレゼン方法を思い出し、自分達のプロジェクト内容を伝えられるベストな方法を考える
9	<ul style="list-style-type: none"> ○仮説検証した内容をプレゼンし、自分たちが導き出した「自分たちの健康を守るためのプラン」を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のチームがプレゼンしたプランを参考に、これからの自分の健康維持・増進に生かしていく。

<プロジェクトシート（技術科）>

「材料の構造を工夫しよう」

1 題材（単元）名 第1学年 材料と加工に関する技術

2 題材（単元）について

人類は、木材、金属、プラスチックなどのさまざまな材料を加工し、生活に必要な製品をつくってきた。適した材料を選択し、構造や加工法の工夫に知恵を絞り、さまざまな試行錯誤を繰り返して、利便性や耐久性を求めてきた。さらに改善させようとする意志とたゆまぬ努力により、さまざまな製品が生まれ、今日の豊かな生活につながっている。

本時では、材料加工の基礎的な学習として、1枚の材料（厚紙）をじょうぶな構造にするためにはどうすればよいか考える。まず、個人で自由に材料を加工させる。次にグループで加工法を共有する。じょうぶさを比較する実験を考え、じょうぶな構造にするための加工法について理解していく。

「よりよいものを創ろう」とする態度の育成は、技術・家庭科において、たいへん重要である。グループで話し合い、じょうぶな構造について考え、協働し学び合う授業を展開したい。

3 実施時期 9月中旬～

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	○本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">材料をじょうぶにするための加工法を考えよう</div>	
2	○じょうぶな構造にするにはどうすればよいか考える。 ○一人4種類程度、材料を加工する。	・話し合いのために、まず個人でしっかり考える。
3	○じょうぶな構造を確認する実験方法を考える。 ・予想 「両端を支えて、材料の上に重りを置く」 「手で押す」 「上から床に落とす」	・グループで意見を出し合って方法を考える。
4	○じょうぶな構造の比較実験をする。 ○結果を学習シートに記入する。	・グループで協働して実験する。
5	○実験結果を発表する。	
6	○学びを振り返り、シートにまとめる。	

<プロジェクトシート（自立活動）>

「中学校生活を発信しよう！」

1 題材名 中学校生活って楽しいよ！

2 題材の目標

・目標に向け継続した取り組みをするなかで自己肯定感や積極性を向上させる。

【 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること 】

・活動に興味を持って意欲的に取り組み、相手を意識した適切なコミュニケーションをとることができる。

【 6 コミュニケーション (1) 状況に応じたコミュニケーションに関すること 】

3 題材について

小学校と中学校の大きな違いは教科担任制と部活動であろう。4組の生徒2名は、小学校において、学校生活のほとんどを特別支援学級で過ごしてきた。中学校では、長い休業の後にもかかわらず、入学後の1ヶ月をほぼ通常学級で過ごしている。学習面において通常学級での学習は難しいであろうが、朝の会や給食、休み時間などの生活部分は分離すべきではないという思いと、この安居中学校の建物の特性を生かした彼らの学びを追究したいという思いで、通常学級において学校生活をスタートさせた。それは、将来、分離された社会ではなく開かれた地域社会で自分らしく生きていってほしいという願いでもある。また、他の生徒にとって、4組2名の存在が、将来社会生活を送る上で、プラスに働くと思うからでもある。

この単元では、まず生徒に「中学生になって何が変わった？」と投げかけるところからはじめ、建物や制服の違い、教科担任制になったこと、部活のあることなど具体的で分かりやすいことから、自分がなぜ4組で学んでいるのかという自己理解の部分にまで踏み込み、自分が将来どう生きていきたいかを少しでも考えられるよう発展させたい。そして、頑張っている自分や変わった自分を後輩に伝える活動を行うことで、自己肯定感や積極性を高め、相手を意識した適切なコミュニケーションの向上を図りたい。また、これからの中学校生活への意欲向上にも結びつけたい。

・実施時期 7月上旬～2月上旬

4 指導計画

過程	学習活動	○研究主題との関連
1	○「中学生になって自分たちの生活はどう変わったか」について考える。 ○小学校との違いや頑張っていることを確認する。	・「中学校生活を発信しよう！」を計画し、自分たちの中学校生活を考える。
2	○確認したことについて「誰に」「どの違いを」「いつ」「どういう方法で」伝えるかを考える。	・約1年間の活動を自分たちで考えてみる。

安居中学校の生活を発信しよう。見直そう。

3	<p>○遠隔システムを利用し、小学校へ自分たちの学校と学校生活を紹介する。</p> <p>○中学校生活での自分の学びを確認する。</p>	<p>・目標と評価の観点を考える。</p>
4	<p>○中学校生活の中から小学校で直接伝えたいことを考える。</p> <p>○伝えたいことをまとめる。</p>	
5	<p>○小学校で中学校生活での学びを発表する。</p> <p>○自分たちの学びについて質問などを受ける。</p>	
6	<p>○今までの中学校生活での学びを振り返る。</p> <p>○これから自分がどう学んでいくかを確認する。</p>	<p>・活動を振り返りながら目標と照らし合わせ、どのくらい達成できたかチェックし、次の活動を考える。</p>